

## 2021年登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験

# 二次試験（その1） 問題・解答用紙

### 注意事項

- ① 二次試験（その1）は、No.1、No.2の2問で、解答時間は2時間10分（130分）です。
- ② 問題用紙（下書き用紙含む）は、No.1が2枚、No.2が2枚で合計4枚です。  
解答用紙はNo.1が1枚、No.2が1枚で合計2枚です。
- ③ 問題は全問必須ですから、2問すべてに解答してください。  
なお、配点はNo.1が20点、No.2が20点で、40点満点です。
- ④ 解答用紙の全ページに受験番号をご記入ください。
- ⑤ 問題用紙、解答用紙はのり付けを切り放して使用してください。
- ⑥ 解答は、解答用紙に黒の鉛筆、シャープペンシル、またはペン等で記入してください。  
下書き等に色を使用してもさしつかえありませんが、色を使った表現を解答した場合はその表現はすべて採点対象外となります。また、下書き用紙への記述はすべて採点対象外です。解答は解答用紙のみ記入してください。
- ⑦ 問題用紙の余白、下書き用紙は、計算等に使用してもさしつかえありません。  
ただし、解答用紙には、計算等解答に関係のない記述はしないでください。
- ⑧ なお、二次試験（その1）は、No.1、No.2のそれぞれの採点結果を合計して評価いたします。  
いずれかの採点結果が著しく低い場合は合格に至らない場合があります。
- ⑨ 試験終了後は、解答用紙をページ順に並べ、机の上に置いてください。係員が回収するまでそのままお待ちください。
- ⑩ 問題用紙は、試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。  
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

# No. 1 土地利用ダイアグラムを作成しなさい

(配点：20点)

## ■出題テーマ

生物多様性保全や生活環境の向上につながるランドスケープ計画

## ■課題

- 対象地は、地方中核都市の一部で、湖に面した低地面に広がる市街地と後背地の丘陵山林で構成される。湖岸を走る鉄道沿いに市街地が形成されているが、近年は周辺部での宅地開発が急速に進行し、市街地が丘陵の山麓にまで拡大して緑が減少している。
- 対象地は、当該都市の持続可能なまちづくりのモデル地区に設定されており、その一環として「山・川・湖の自然や歴史的資源の保全・活用」、「湖岸・山並みの景観再生」、「生活環境と結びついた緑・オープンスペースの充実」などを柱とする緑の環境づくりを市民との協働で推進していくことが求められている。
- こうした状況を踏まえ、次に示す計画地の現状と現況図を読み解き、解答用紙に、出題テーマを踏まえたランドスケープの計画の方針を述べるとともに、方針に沿った土地利用ダイアグラムを作成しなさい。
- 現況図は凡例に示す他は地図記号の通りとする。

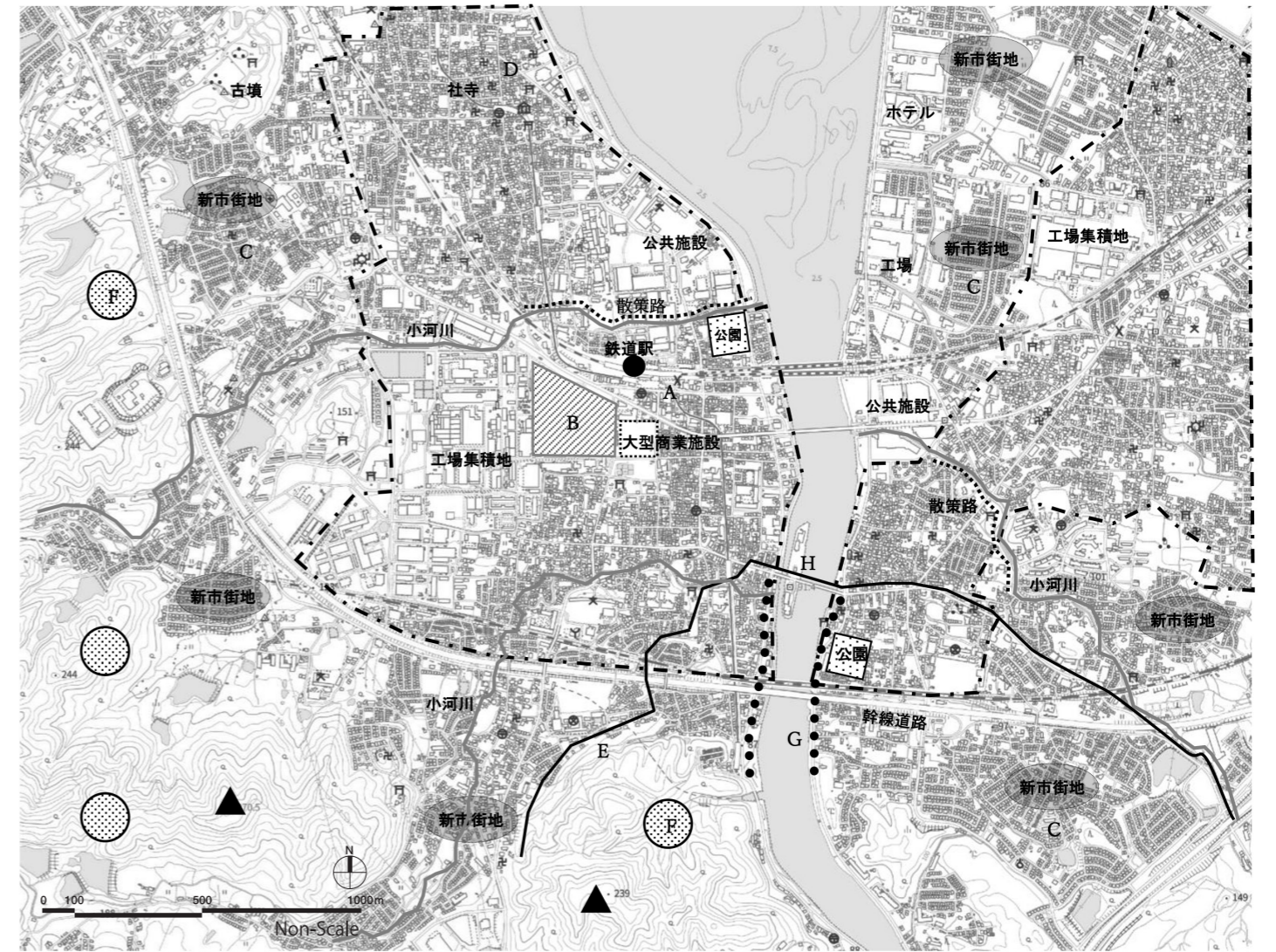
## ■計画地の現状

- 既成市街地**：湖岸沿いは公共施設・工場・ホテルなどが立地しており、建築物が連続する景観となっている。鉄道駅を中心に商業施設が集積するほか、2箇所の工場集積地が見られる。市街地内には小規模公園・農地・屋敷林などが分布するが、緑は全体的に少ない。鉄道駅に近接して大規模な工場跡地が存在しており、都市の再生と生活環境の向上につながる適正な土地利用の提案が求められている。市街地を流れる小河川は一部散策路が整備されているが、親水性・自然性を有する区間は少ない。市街地の北部には、高名な寺院を中心とする社寺の集積地が見られる。
- 新市街地**：既成市街地の外縁から山麓にかけてと湖岸の一部で宅地開発が進行し、新市街地が形成されている。新市街地での主な緑の資源は、小規模公園や一部の街路樹などである。
- 山麓**：対象地の北西部に位置する古墳一帯を、歴史的観光資源として活用することが検討されている。また、対象地の南側を通る自然歩道につながる遊歩道の整備が求められている。
- 丘陵**：市街地の西・南側には、美しい山並み景観と起伏に富んだ地形の丘陵山林が広がる。ため池とその周辺部一帯は希少生物の生息生育地となっているほか、市街地を俯瞰できる眺望地点があるが、その保全・活用策は十分に講じられていない状況にある。
- 河川**：中央部の河川沿いは自然的環境が良好に維持され、サクラの景勝地、市民のレクリエーションの場として親しまれている。また、河川にかかる橋は観光名所として知られている。

## ■計画条件および留意事項

- 課題1のランドスケープ計画の方針は、解答欄の①～⑤について、それぞれの項目数以上の提案を簡条書きで、枠内に収まる範囲にまとめること。
- 課題2の土地利用ダイアグラムは、図示した凡例を参考に、図面に拠点・軸・ゾーン・回遊ルートを表示し、脇に短い言葉を添えること。(〇〇公園の整備、〇〇軸の形成、〇〇ゾーンの保全、など)なお、拠点やルートの整備に伴う現状の土地利用の変更や建物の改修は可とする。
- 土地利用ダイアグラムは、わかりやすい表現を心がけること。

## ■現況図(注：写真A～Fは、図中のA～Fに対応したイメージです)



	: 湖・河川		: 丘陵眺望地		: 希少生物生息生育地		: 既成市街地		: 新市街地
	: 大規模工場跡地		: 既設公園		: サクラの景勝地		: 自然歩道		

No. <b>1</b>	土地利用ダイアグラム	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect
	問題用紙	2	

課題1 以下の各課題について、指定された項目数以上の方針を記述しなさい。

①地域の自然・歴史文化とのふれあいや、交流・体験・眺望が楽しめる「緑の拠点の整備」について  
【4項目以上】

②地域の生態系保全や景観形成につながる「緑の軸の確保・創出」について 【3項目以上】

# 下書き用紙

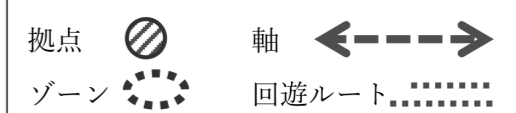
③地域の生態系保全につながる「緑のゾーンの保全や質の充実」について 【2項目以上】

④地域資源を活かした「回遊ルートの整備」について 【2項目以上】

⑤地域の緑の環境づくりに向けた「公民連携のあり方」について 【1項目以上】

課題2 課題1で記述した「緑の拠点」、「緑の軸」、「緑のゾーン」、「回遊ルート」を、下記の凡例に示す表現を参考に図示し、短い説明の言葉を添えて土地利用ダイアグラムを作成しなさい。

ダイアグラム凡例



No.	土地利用ダイアグラム	2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	解答用紙ではありません
1	問題用紙(下書き用紙)	2		

## No. 2 敷地計画図を作成しなさい

(配点：20点)

### ■出題テーマ

「歩きたくなるまちづくり」に対応した、歩道と一体化した公園計画

### ■課題

計画対象地は、地方都市の鉄道駅と城址公園を結ぶ幹線道路に面する、面積約5,000㎡の都市公園である。幹線道路は、本地域における“歩きたくなるまちづくり”構想の核として位置づけられ、副道を歩道化することが予定されている。

本計画はこうした立地特性を活かし、Park-PFI制度による収益施設（カフェレストラン棟）を導入して、賑わいのある公園へとリニューアルを行うものである。

以下の課題について解答用紙に記入しなさい。

1. カフェレストラン棟を平面図に配置しなさい。
2. 計画条件に示す各種広場と各種施設などを、平面図に配置しなさい。
3. 上記の計画で配慮した事項について、簡潔に記述しなさい。

### ■敷地条件

- 隣接する幹線道路は、鉄道駅から城址公園へ向かう観光客の動線や市民生活の拠点となっている。
- 敷地及び周辺は、ほぼ平坦であり、バリアフリーが確保されている。
- 計画敷地内西側には、公園リニューアル後も保存が予定されている既存樹木（ケヤキ h=12m 2本）がある。

### ■計画条件

#### 1. カフェレストラン棟（Park-PFI制度・公募対象公園施設）

- カフェレストラン棟（兼観光案内所、物販店舗）は地上1階建てで、規模及び間取りは凡例に示した通りである。なお、解答用紙に記入するカフェレストラン棟の表現は、建物の外郭線のみで良い。
- バックヤードとして車両駐車スペース3.5m×6.0mを計画すること。
- 次に示すコミュニティ広場を形成するように配置すること。

#### 2. コミュニティ広場（Park-PFI制度・特定公園施設）

- カフェレストラン棟や幹線道路歩道と一体化し、北側街区のテラス広場と連携した広場を設けること。
- 広場内に屋外でのワークショップなどの利用が可能なコミュニティテーブルを配置すること。

#### 3. ストリートプラザ（Park-PFI制度・特定公園施設）

- 幹線道路歩道と連続した一体的な空間で、マルシェなどのイベント開催にも対応できる広場を設けること。

#### 4. 芝生広場

- イベントやお祭りの開催を可能とする面積1,000㎡以上の芝生広場を設けること。なお、広場内には、緑陰を提供する植栽を適宜配置すること。

#### 5. 遊具スペース

- 子供の遊び場として面積250㎡以上の遊具スペースを、緑陰をつくる既存樹木を活かしながら、芝生広場との連携が図れるように計画すること。

#### 6. 園路等

- 計画地周辺の道路は、北側・西側・南側共に幅員が狭く（8m）歩道のない道路となっていることから、計画地内に安全に通行できる歩行空間（幅員2.0m以上）を設けること。
- 上記1～5の施設をつなぐ園路（幅員2.0m以上）を設けること。園路は、公園維持管理のための軽自動車の通行にも配慮したものとする。なお、広場を横断する場合などは、明確な園路でなくても良い。

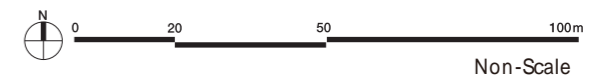
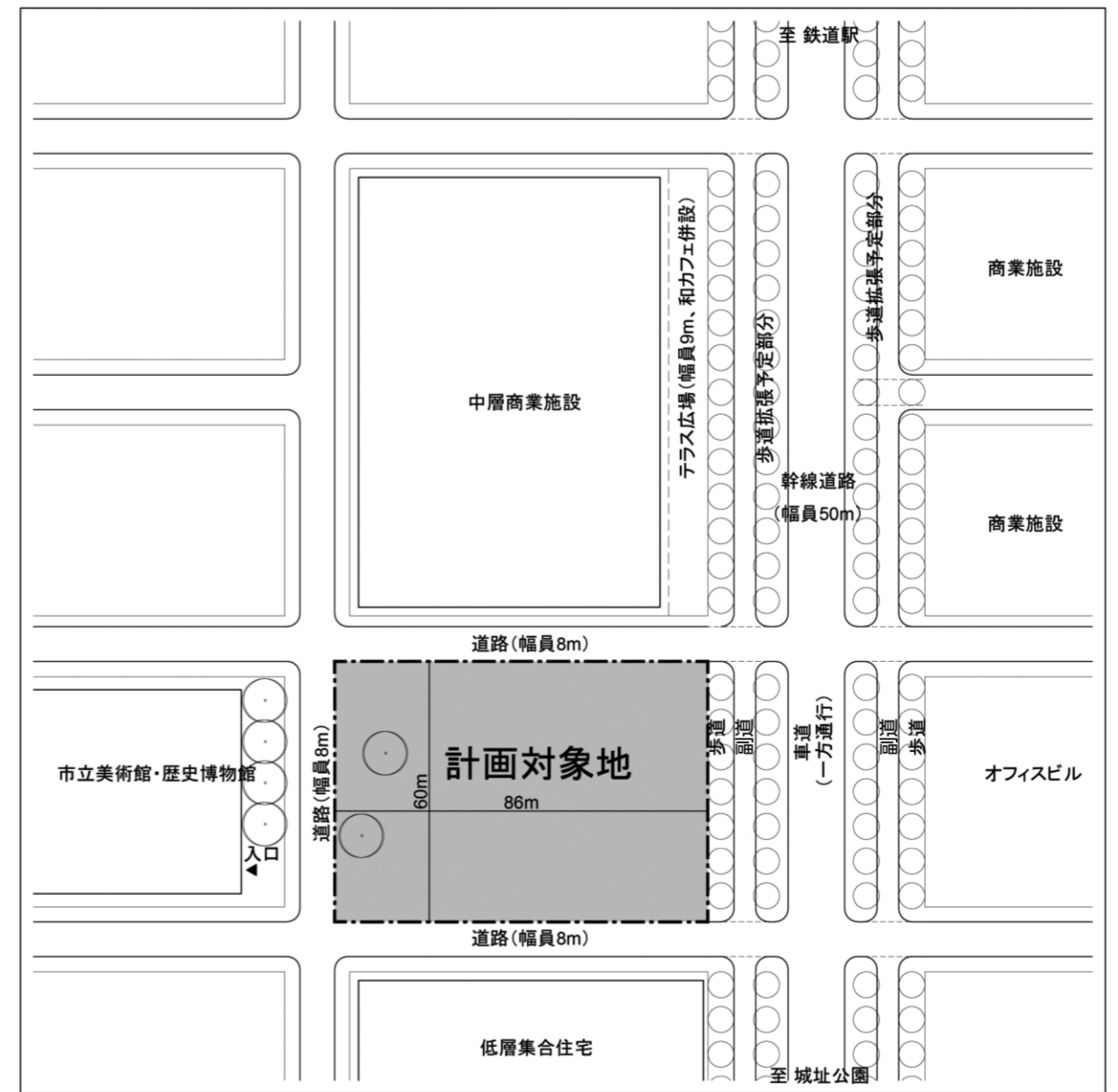
#### 7. 植栽、その他

- 幹線道路の歩行者を敷地西側の市立美術館・歴史博物館へ誘引するために、公園内を東西方向に展開する花で彩られた空間を計画すること。
- 敷地周囲の景観や用途、計画する施設に配慮した植栽を配植する。なお、樹種の記載は行わなくても良い。
- ベンチなどの休養施設を適宜配置すること。

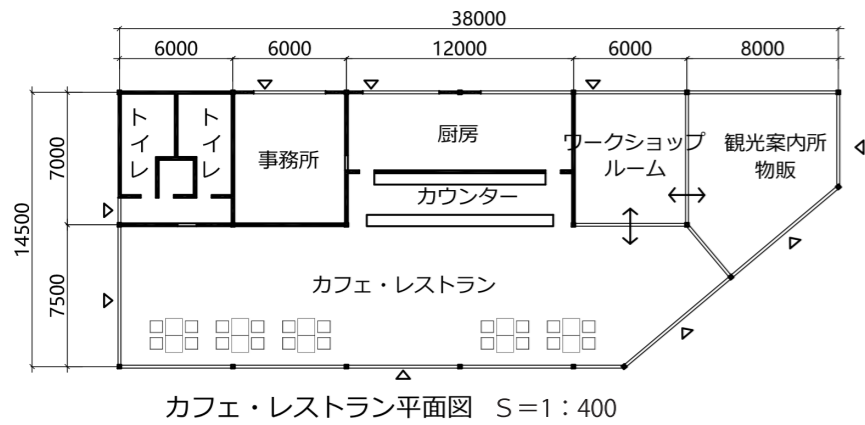
### ■留意事項

- 計画施設には各施設名を表記すること。
- 凡例に表記のない施設は、その概要が分かる程度の表現とし、必要に応じて名称を記入すること。

### ■敷地周辺図

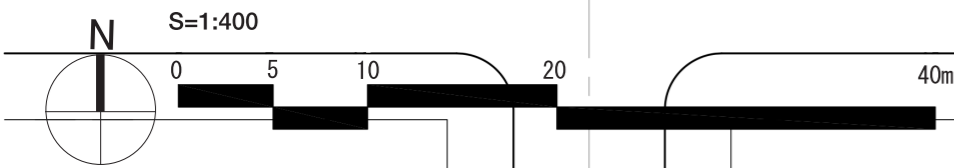
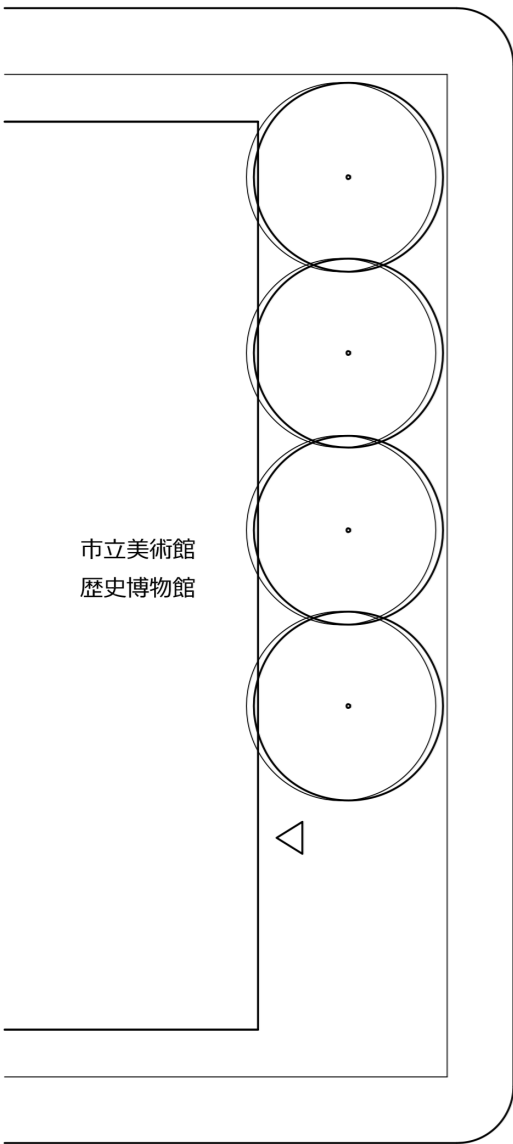
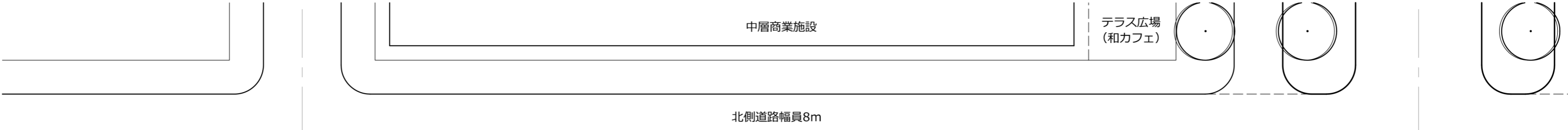


No. <b>2</b>	敷地計画	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect
	問題用紙	2	



計画について配慮した事項

Blank area for notes regarding planning considerations.



No.	敷地計画	2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	解答用紙ではありません
2	問題用紙(下書き用紙)	2		

課題1 以下の各課題について、指定された項目数以上の方針を記述しなさい。

①地域の自然・歴史文化とのふれあいや、交流・体験・眺望が楽しめる「緑の拠点の整備」について  
【4項目以上】

②地域の生態系保全や景観形成につながる「緑の軸の確保・創出」について 【3項目以上】

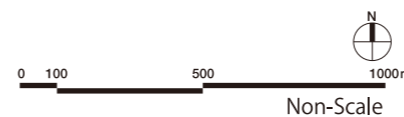
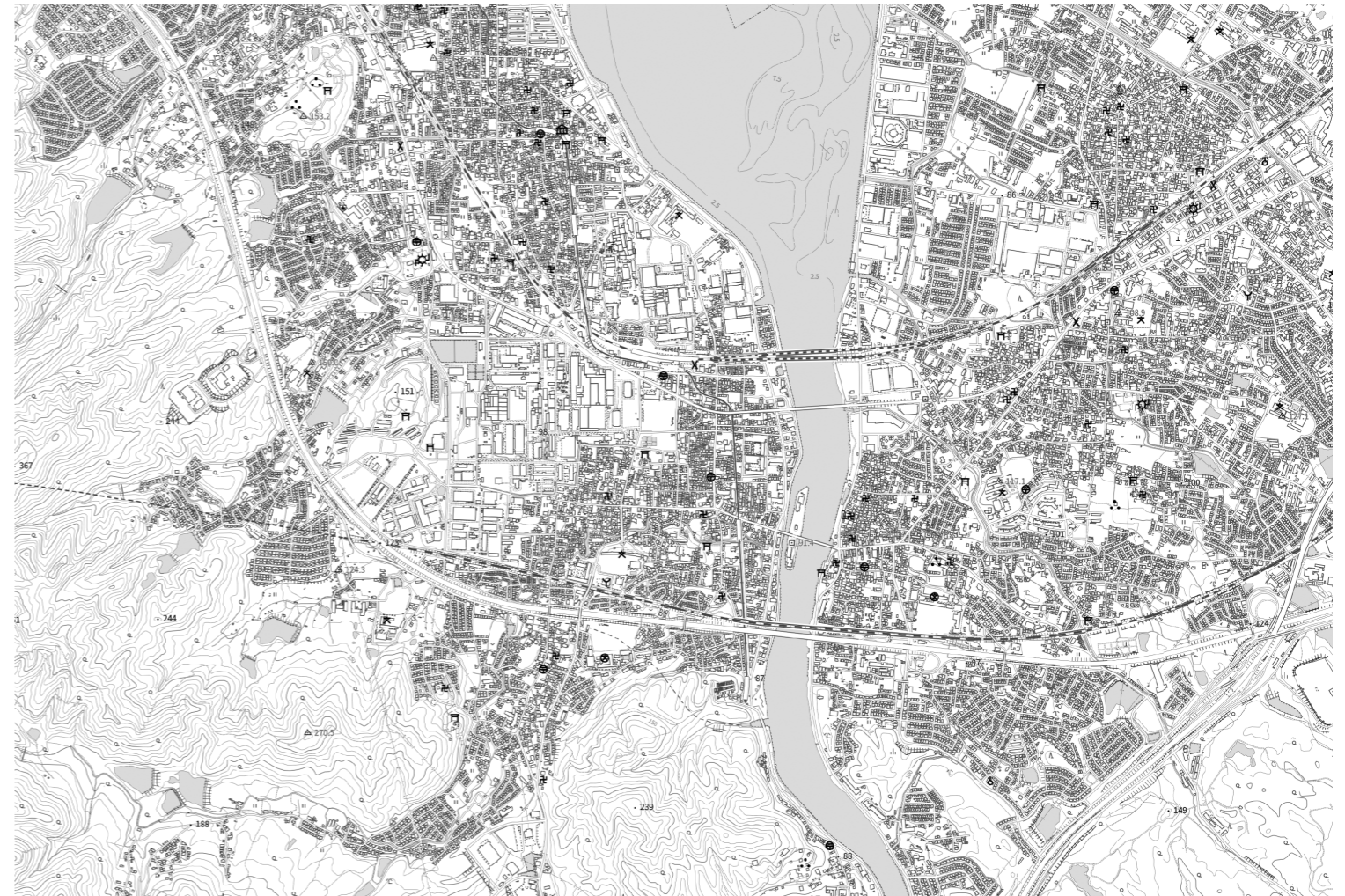
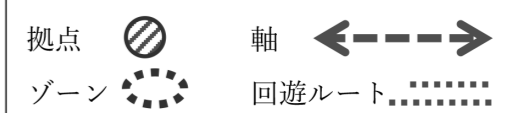
③地域の生態系保全につながる「緑のゾーンの保全や質の充実」について 【2項目以上】

④地域資源を活かした「回遊ルートの整備」について 【2項目以上】

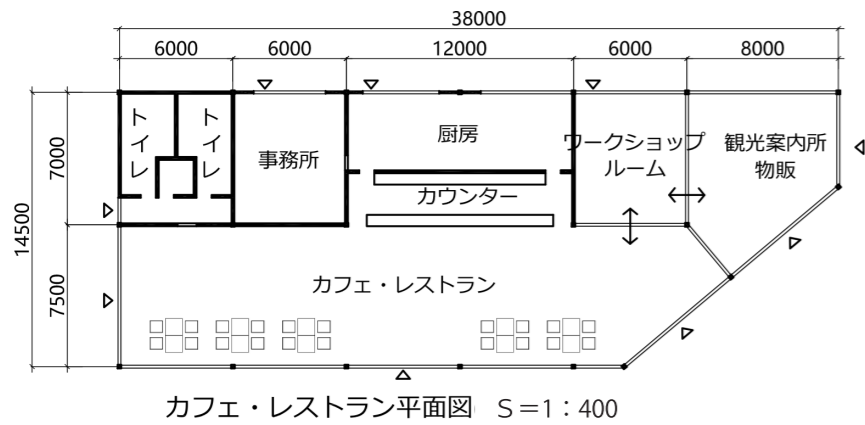
⑤地域の緑の環境づくりに向けた「公民連携のあり方」について 【1項目以上】

課題2 課題1で記述した「緑の拠点」、「緑の軸」、「緑のゾーン」、「回遊ルート」を、下記の凡例に示す表現を参考に図示し、短い説明の言葉を添えて土地利用ダイアグラムを作成しなさい。

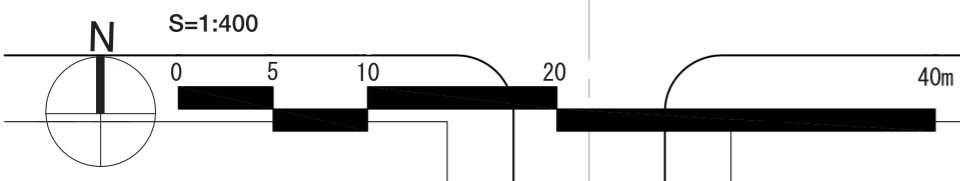
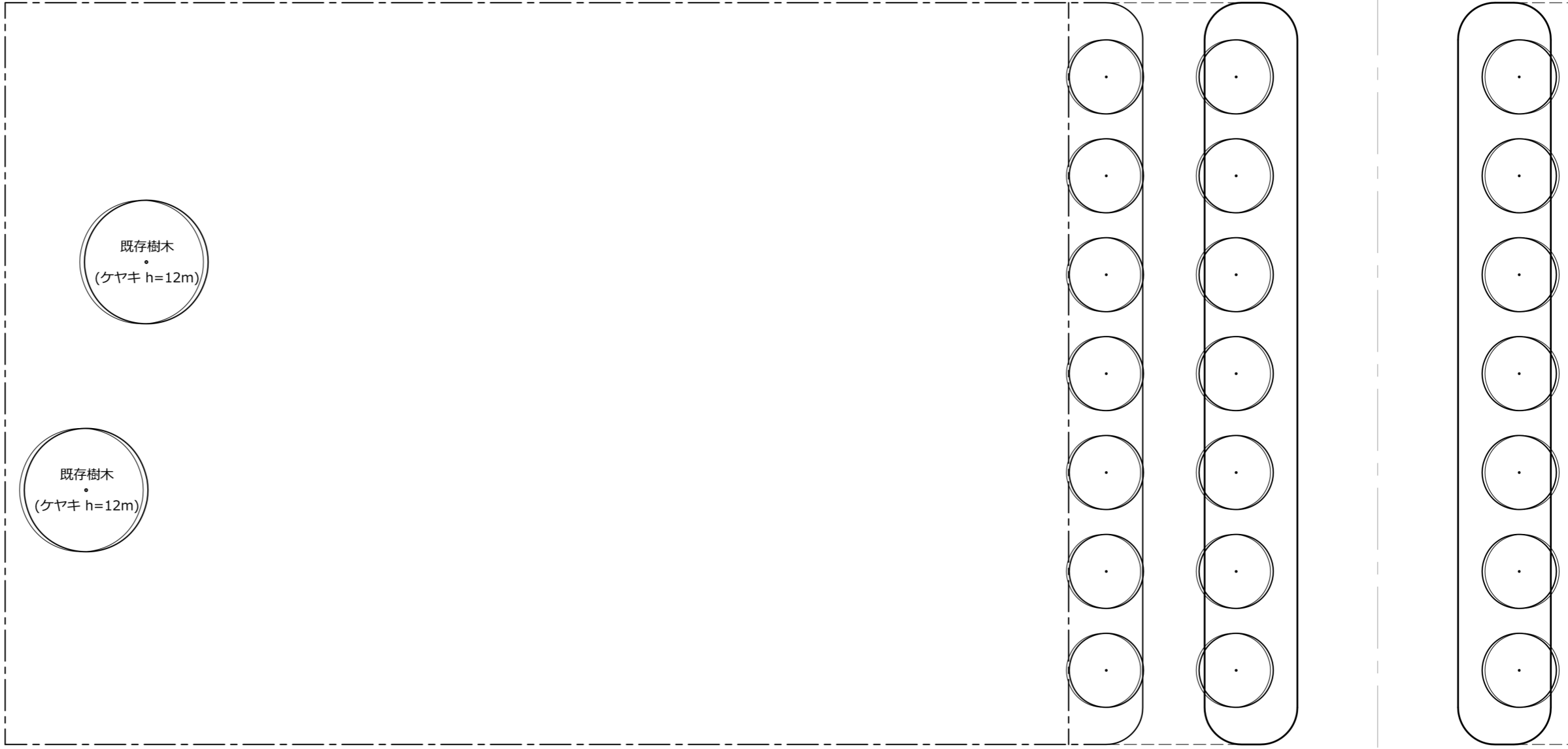
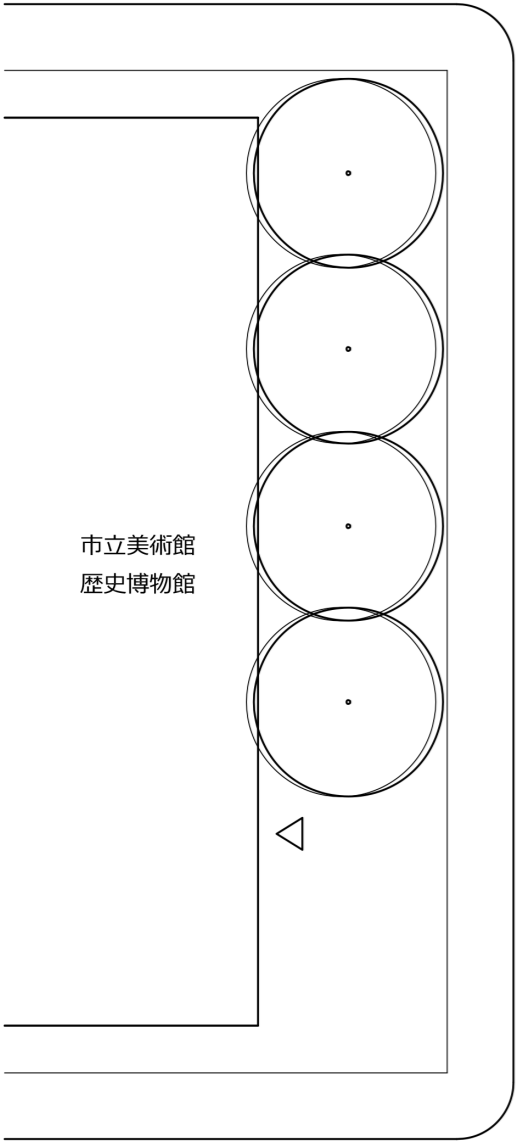
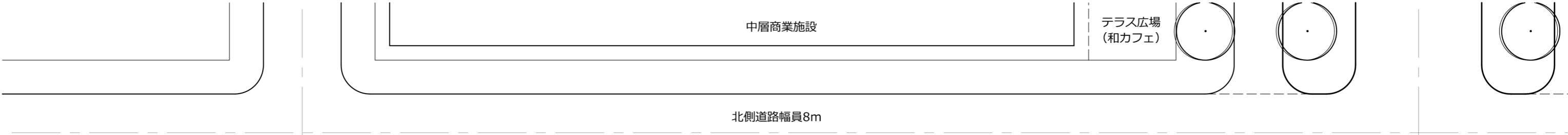
ダイアグラム凡例



No. <b>1</b>	土地利用ダイアグラム	1	<b>RLA 資格認定試験</b> Registered Landscape Architect	受験 番号						
	解答用紙	1								



計画について配慮した事項

No. <b>2</b>	敷地計画	1/1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験 番号				
	解答用紙							